# 第１５回宇宙政策委員会　議事録

１．日時：平成２５年５月３０日（木）　１０：３０－１２：４０

２．場所：内閣府宇宙戦略室５階会議室

３．出席者
（１）委員
葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員
（２）政府側
山本内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官

４．議事録
山本大臣から、安倍総理も宇宙政策の重要性を十分に認識している旨言及があった上で、以下のような挨拶があった。
・平成２６年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針は、各府省の来年度概算要求の指針となるものであり、来週中にも関係府省に対しこの戦略的予算配分方針を示したいと考えている。

（１）宇宙輸送システム部会、宇宙産業部会、宇宙科学・探査部会、調査分析部会からの報告

[宇宙輸送システム部会からの報告]
初めに、山川委員より、資料１－１に基づき、宇宙輸送システム部会の中間とりまとめについて説明があった。説明の後、以下のようなやりとりがあった。
（以下、○質問・意見等、●回答）

○新たな基幹ロケットの開発に着手するという中間とりまとめは歓迎したい。新たな基幹ロケットの能力はどれくらいのものを想定しているか。（中須賀委員）

●新たな基幹ロケットは最も重要となる政府衛星、特に安全保障衛星を着実に打ち上げる能力を有することが重要。一方で、商業受注に向けた能力も実現する必要があることから全体のコストを削減しつつ、柔軟に対応していくべく、確認すべき事項について早急に対応していく必要がある。（山川委員）

○衛星打ち上げ市場のニーズに合致するよう、イプシロンロケットの能力向上についても行っていくのか。（中須賀委員）

●イプシロンロケットについても、小型衛星の今後の動向を踏まえて能力向上やコストダウンを行っていくこととなる。（山川委員）

○宇宙科学・探査部会も輸送システム部会と同様に中長期的なスパンで検討を行うこととなっている。特に、新たな基幹ロケット開発着手にあた

り確認すべき事項は非常に細かい内容なので、戦略的予算配分方針のような大きな方針の中で記載するべきなのか気になるところ。（松井委員）

●中長期的なビジョンについてはまだ検討に入れていないが、新たな基幹ロケットの開発着手にあたって確認すべき事項については、引き続き部会で詰めていく必要がある。（西本室長）

○何かを開発するにあたっては、様々な課題を整理しながら進めていく話は多い。中間評価を行いながら、フレキシブルかつダイナミックに計画を変更していくものである。こうした観点からも、「確認すべき事項」という表現については、「確認」ではなく「整理すべき事項」と修正したほうが、適切ではないか。（葛西委員長）

●ご指摘のとおりとさせていただきたい。また、最終とりまとめでもそのような用語の使い方としたい。（山川委員）

○資料では、１９８８年の米国の商業打ち上げ法に言及されているが、最初の制定は１９８４年であることから、どの時点に言及するかは注意して欲しい。（青木委員）

●大きな改正は１９８８年であるのでこれを記入しているが、検討したい。（西本室長）

［宇宙産業部会からの報告］

事務局より、資料１－２に基づき、「平成２６年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する宇宙産業部会の意見について説明があった。説明の後、以下のようなやりとりがあった。

○防災衛星ネットワークは、これまでの地球観測衛星を整理し、一体化して今後さらに充実させていこうという方向性ということでよいか。（松井委員）

●ご認識のとおり。これまでは、研究開発として衛星を打ち上げてきたので、打ち上げた衛星が停止したら、また違うスペックで研究開発として衛星を打ち上げていたので、データに連続性が無かった。技術開発は依然重要であるものの、今後は高頻度かつ継続的な観測を実現する実用となる衛星の開発が重要になってくる。（西本室長）

○この衛星コンステレーションはいろいろなものに役立つことから、来年度の重点事業の目玉の一つになると考えているが、これにより準天頂衛星システムの重要性がかすまないようにするべき。（松井委員）

●準天頂衛星については、４機体制を実現するための予算は手当したものの、打ち上げ費用が手当できていないことから、今後、予算確保に向けてしっかり取り組んでいきたいと考えている。また、準天頂衛星システムは、利用促進に向けたアプリケーションが重要であり、ＡＳＥＡＮも含めて利用を拡大していきたいと考えている。（西本室長）

○防災衛星ネットワークという名称では明確でないので、安全保障も含めて様々な用途に役に立つものであるようなことがわかるような名称にするべき。その際、時間分解能の高さが売りになるような名称がいいのではないか。（松井委員、中須賀委員）

○システムの構成が委員からの意見として挙げられているが、この中にはＡＳＮＡＲＯやＡＬＯＳシリーズなど、現在開発中の衛星も含まれているか。（山崎委員）

●衛星の開発には５年程度かかると見込んでいるので、このコンステレーションが実現するころまでに、現在開発している衛星が運用しているのであれば、コンステレーションに組み込んでいきたい。（西本室長）

○既存のシステムをうまく生かしていただきたい。今後開発していくリモートセンシング衛星は両用衛星になると考えてよいか。（山崎委員）

●ご指摘のとおり。安全保障と民生の両用で使える衛星であることが大事である。（西本室長）

○準天頂衛星システムと防災衛星ネットワークとが独立したシステムになるのではなく、相互にデータ活用の上で連携するなど、総合的に見て効率のよいシステムを目指していただきたい。（山崎委員）

●松本部会長からは、こうした宇宙インフラの整備に際してもＪＡＸＡには知見があることから、ＪＡＸＡを活用してほしい旨話があったこともご報告する。（西本室長）

［宇宙科学・探査部会からの報告］

松井委員より、資料１－３に基づき「平成２６年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する宇宙科学・探査部会の意見について説明があった。

［調査分析部会］

中須賀委員より、資料１－４に基づき、調査分析部会のこれまでの取り組みについて説明があった。説明の後、以下のようなやりとりがあった。

○公開情報以外にも、重要な情報が集まってきており、今後レポートなど、部会としてのアウトプットもあるのではないかと思料するが、そういった情報を今後どう管理するのか。（山川委員）

●ＪＡＸＡに調査分析課が出来たこともあり、情報管理の拠点の一つになっていただき、内閣府や調査分析部会と連携していくというやり方もあると思う。また、宇宙法などに関しては慶応大学などが知見を有しており、そういった大学とネットワークを築いていくことも視野に入れている。（中須賀委員）

○データポリシーの法整備等の課題もあろうかと思うが、こうした課題も並行して進めているのか。（山崎委員）

●そのとおり。宇宙政策委員会から何らかの調査課題をいただき、調査分析部会で扱うことも一つのやり方ではないかと思っている。（中須賀委員）

（２）平成２６年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針について

事務局から資料２に基づいて説明を行ったところ、以下のようなやりとりがあった。

○「新型基幹ロケットに着手する」とされているが、輸送システム部会の中間とりまとめに合わせて、「新型基幹ロケットの開発に着手する」と修正いただきたい。（山川委員）

○重点化すべき事業として挙げられているものが、なぜ重点化するべきなのかを宇宙基本計画を踏まえて明らかにするような記述を追加するべき。（松井委員）

○宇宙科学・探査プログラムは、中長期的なロードマップができていないことから本年度に限って、現行の事業の円滑な実施のみに言及している旨を補記するべき。（松井委員）

○ＩＳＳについて、「経費を削減する」とされているが、宇宙基本計画の記述を踏まえて「経費の削減に努める」とするべき。（山崎委員）

○昨年は、利用拡大に関する予算が少なかったように思うが、利用拡大のための調査検討やアプリケーション開発などに予算を付けられるような書きぶりにしてほしい。（中須賀委員）

資料２「平成２６年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」については、委員からの意見を踏まえ、一部修正のうえ、委員会として了承された。修正については、委員長に一任することで了承された。

平成２６年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針は、内閣府より関係府省に提示し、各省からの概算要求が提出された後、宇宙政策委員会としてフォローアップを実施することとなった。

以　上